

そらべつ 議会だより



子ども郷土史講座

■ 第2回定例会のあらまし	2
■ 一般質問	4
■ 研修報告	5
■ 商工会青年部との懇談会	7
■ 委員会レポート	8
■ 薫風	10

発行 / 壮瞥町議会

編集 / 議会広報特別委員会
(TEL 66-2121 · FAX 66-7001)

No. 58
■ 2015年8月 ■

定例会のあらかし 議案審議

地方版総合戦略策定へ！ 今後の事業展開に期待！

平成27年第2回定例会は、6月11日から12日までの2日間の会期で開催されました。1名の議員が一般質問を行い、町政を質しました。平成27年度壮瞥町一般会計補正予算のほか、議案9件、報告2件を審議し、それぞれ可決しました。

第1回臨時会

改選後の初議会であり、今後4年間の議会構成（正副議長、常任委員、議会運営委員、一部事務組合議会議員、監査委員等）を決定した。（詳細は7P参照）

第2回臨時会

平成27年度壮瞥町一般会計補正予算（第2号）

1075万7千円追加

補正後の予算総額

41億8475万7千円

定住促進・まちづくり 推進事業

312万2千円追加

*国の地方創生事業の一環で、都道府県、市町村単位で将来の人口ビジョンと、今後5年間の基本目標や具体的な施策をまとめた「地方版総合戦略」を策定することになっている。

質問

総合戦略は、そのまちの数十年後の人口の在り様を分析し、それを踏まえて、そのまちがどうあるべきか、向こう5年間の戦略を10月中にまとめるものであるが、期間を考えると相当無理があるのでは。

答弁

短い期間の中で、多岐にわたる内容の戦略（施策計画）

を作ることは無理があると認識しているが、それが国全体の流れであれば、本町としても、無理をしてもその流れに沿っていきたいと考えている。

これから、推進会議やアンケート等の意見を踏まえて策定することになるが、本町では平成25年度に定住促進と公共施設の有効活用計画を策定しており、その段階である程度、人口の動向等は分析している。

そのほかにも、産業政策として農工商連携、福祉政策として子育て支援に対する計画を策定しており、全く素地のないところから組み上げる考えではない。

今までの計画や施策を踏襲し、さらに新しい情報を基に

分析や再構築をして作り上げていきたい。



壮瞥中サマーコンサート（情報館 i）

第2回定例会

固定資産評価審査委員会 委員の選任

委員である石川豊次郎氏を引き続き選任することに同意。

工事請負契約

契約額 7754万4千円

質問

久保内小学校の外壁及び屋根の改修、塗装工事であるが、屋根の塗装は今まで実施したことはあるのか。

平成27年 第2回

また、長期維持の観点から、このような施設の屋根等は何年間隔で塗装するとよいのか。

答弁

屋根の改修、塗装工事は今回初めて実施する。

長持ちさせるためには、定期的に塗装するのが一番であるが、維持管理を要する公共施設が多数あり、それぞれの状態を確認し、財源確保を行いつながり全体的に順次実施していることから、15年から20年に1回程度となっている。



子どもと一緒に彫刻公園清掃

平成27年度壮瞥町一般会計補正予算(第3号)

9046万8千円減額

補正後の予算総額

40億9428万9千円

通信運搬費(コミュニティIFM関係)

30万1千円追加

質問

緊急時の情報を流すため、割り込み装置につなぐ光回線を整備するものであるが、割り込み装置はどのような仕組みとなっているのか。

答弁

注意報や警報は普段の放送の中で流すことになっているが、緊急時には割り込み装置により、各市町から割り込み放送ができるようになっていく。

質問

壮瞥での受信状況は、場所によってはかなり雑音が入る。受信感を良くすることはできないのか。

答弁

電界調査を行い、4市町を

できるだけカバーできる場所にアンテナを設置し、さらに聞こえづらいところは、中継局を設置しているが、地形の影響により聞こえづらいところが出てくる。中継局のアンテナの向きを変えるなどの工夫をしながら、改善できるものはしていきたいが、それでもできないものは、個別に対応していきたい。

平成27年度壮瞥町介護保険特別会計補正予算(第1号)

180万円追加

補正後の予算総額

3億3180万円

包括支援事業委託料

180万円追加

質問

委託料追加の内容は。また、地域包括支援センターの運営は、町が実施主体として行うべきと考えるが、どのような認識を持っているか。

答弁

内容は、介護保険法の改正に伴い、市町村の包括支援事業が拡大することから、包括

支援センター職員1名の人件費である。

包括支援事業については、本来は各市町村が行う事業で、壮瞥町は社会福祉協議会に委託をしているが、直営でやっている自治体が多いと聞いている。他事業との関連を含め、扱う事業内容を整理する必要があるが、将来的には、直営で包括支援事業に取り組んでいきたいと考えている。

平成27年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

290万円追加

補正後の予算総額

1億5190万円

久保内地区管路改善調査設計委託料

290万円追加

質問

管路改善調査を想定している範囲は。

答弁

パンケ川から下久保内の通称天狗の鼻と言われているところまでを予定している。

いっぱん質問 Q & A



救急車の説明 (建部防火クラブ)

【農業振興対策について】

Q 高齢化が進む中での農業振興についての考え方は

A 新たな農業経営の在り方の検討が必要



森 太郎

議員 儲かる農業の展開と特産品開発、産地化についての考え方は。

【経済環境課長】

これまでは経営基盤強化に主眼を置いた施策を展開してきたが、本町は土壌特性等によ

議員 有効な熱源を利用できない地域における施設園芸展開のための新たな熱源確保等の研究を進める考えは。

また、新たな熱源として地中熱の活用は。

【町長】

熱源確保については、昨年度からの蟠溪地区における地熱開発調査事業を実施しており、発電の可能性と有効な2次利用の在り方についての調査で、本年度も継続して実施する。町内全体では昭和50年代から60年代にかけて熱源調査がおこなわれており、熱源の存在は確認されたが、資源量が農業経営に活用できるレベルではなかった。

他地域からの送湯は、莫大な事業費となるため現実的でない。町としては蟠溪地区の調査結果を踏まえて、豊富な温泉熱を活用したハウスでの野菜栽培拡大の調査研究を進めていきたい。地中熱活用に関しては近年の熱源変換の技術進歩により、多くの活用事例があるので事例を研究したい。

【議員】

農業振興を図る上で後継者対策や高齢化対策についての考え方は。

【町長】

新規就農対策や後継者の就農対策を進めたことにより、担い手対策の一定の効果は現れている。

今後、農家の高齢化により、

遊休農地が発生してくる可能性もあり、集約化に向けた取組や地域の農業者が協力して計画的、組織的に農作業を行う集落営農への転換等、新たな農業経営の在り方について研究を進めていく。

【議員】

新規就農を積極的に進めるための助成制度や研修等の受け皿体制の整備についての考え方は。

【経済環境課長】

農協が策定した農業振興計画の中では新たな人材育成に関するカリキュラムの検討と実践、就農研修に対する支援事業の実施などが盛り込まれており、町の支援制度とともに検討する。指導農業者による研修や技術の提供等のバックアップも行っていく。

業を指してきた。

ブランド力、産地化ではこれまでの幸内地区の地熱を利用したハウス栽培と、今、蟠溪で行っている地熱資源開発に伴う2次利用による地熱を活用した作物等も壮瞥ブランドとして特産化、産地化できるような在り方を検討していく。

研修報告

平成27年7月7～8日

平成27年7月7日に、北海道町村議会議員研修会が札幌市で開催され、参加しました。翌日の8日には、蘭越町で行政視察を行いました。

地方議会の取り巻く最近の動向

菊地敏法

中央大学名誉教授、今村 都南雄先生を講師に迎えての研修会に参加しました。

今村先生のプロフィール。

山梨県生まれ。中央大学法学部法律学科卒業、2010年から中央大学名誉教授に、長い間地方自治の調査・研究に携わり、数多くの著書を出されている。

1. 第1次地方分権から20年がたち自治体はどこまで変わったのか。
2. 地方議会制度改正の概要と教訓
3. 地方議会の役割として「まち・ひと・しごと創生」の政策をどう見るか。

資料を通しながら、長年の調査・研究の経験を踏まえた講話で具体的にわかりやすい内容のものでした。

その中でも特に興味深く、聞かせてもらったのが、3つ目のテーマ、「まち・ひと・しごと創生」の政策をどう見るか。その中のまずは人口減少時代について、どう向き合つことが大切

か、どう考えるべきかとの

話があり、まさに今、壮瞥

町が抱える大きな問題であり、取り組む

べき課題解決に大きなヒントになる話でありました。

この話の冒頭に先生から紹介された本

の内容がありました。

それは、広井良典著作の『人口減少社会の希望』より「私たち高度成長期の発想や枠組みの中で、あるいは、その延長線上での物事を考える限り、人口減少社会は敗北あるいは衰退に向けた進行としか考えられないだろう。しかし：

新たな視座で状況を見ると、それはむしろ全く逆に、日本社会が真の豊かさを実現していくことに向けての大きいなる道標として立ち現れる



講師の今村中央大学名誉教授

のである。」との内容を紹介して、人口減少は大きなピンチかもしれないが、見方、発想を変えれば、大きなチャンスになる、そう捉えて前へ進むことが最も大切であると話されていました。

新聞報道でもありましたが、2040年までに20～39歳の女性人口の予想減少率が発表になり、壮瞥町は76.2%で消滅可能都市とされました。

この結果に一喜一憂することなく、ピンチをチャンスにとらえ、住民一人一人が立ち上がり、よりよい壮瞥町をつくる。またつくれるチャンスが来たこの思いで進んでいくことが大切であり、その上でも、行政と議会の役割が重要であると痛切に感じました。

これからの政局、政治動向 講演の中から

佐藤 恣

● はじめに

講師の川村晃司さんは早稲田大学文学部卒業後、テレビ朝日に入社し、政治記者、海外取材支局長等を歴任し、現在は番組「ワイド！スクランブル」等で外交・政治・経済のコメンテーターとして活躍中で、顔なじみで親近感の持てる講演であった。

● 政治、社会、経済に女性力を

永田町（政府）は、男女共同参画社会創生の

ために、女性の指導者等を増やそうとしているが、現実には経営者・リーダー・指導者が少ない状況である。

さらに、衆参議員の男女割合はやっと併せて1割程度であり、女性の活躍の場が多く残されている。言葉を変えると「女性力の可能性」が残されている。

●政治とは「税に始まり税に終わる」

政治の世界で一番大切なことは、「税に始まり税に終わる」と言える。

税を徴収し、公平に配分することで、その地域や町村が、自分たちの地域として将来性をもつて発展していくのであり、税の使い方がある程度満足されることが大切であり、生活に密着した政治になることが必要である。

●これからの地域づくりは5つのKから始まる

民間フォーラムでまとめた報告書によると、最初にして最後の問題は、少子高齢化の中で地域が生き延びていくことであり、そのために必要なものは、5つのKから始まる。

経済のK、環境のK、健康のK、介護のK、観光のKで、健康と介護は一本化して考えることが必要である。

●全国の市町村から国政に声を届けよう

現在、安全保障について国会で審議されているが、全国の市町村議会からの声を国政に届けることが必要でないか。

●「微風和暖」の心で

この言葉は田中角栄の座右の銘であるが、内政・外交も、与党・野党も、お互いに微かな風が吹いているときに、平和をもたらすことを心して考えることが必要ではないかと話され、講演は終了した。

『定住促進施策について』

毛利 爾

7月8日、前日の北海道町村議会議員研修会に次いで、蘭越町において取り組まれている、「定住促進施策」について、視察をしてきました。

蘭越町は、人口4951人（5月末現在）で、「おいしいお米と温泉と花の町」というキャッチフレーズを掲げた、一部、日本海に面した緑と温泉が豊かな町です。

蘭越町の定住促進施策は、4つのカテゴリーに分かれており、一つ目は「住宅支援制度」として、マイホーム取得奨励事業、ふれあい定住住宅地貸付事業、二つ目は「生活支援制度」として、移住歓迎米、結婚祝い金、誕生祝い金、子育て支援入学時給付助成事業、三つ目は「就業・終業、就職、起業支援制度」として、新規就業奨励金、就業奨励金、就職奨励金、起業化促進奨励事業、四つ目は「教育支援制度」として、農業大学校等修学事業が行われております。

また、少子高齢化対策として、高校生以下の医療費全額助成も行っております。

宅地貸付事業

業においては、現在13軒が各地より移住してきており、その方々と地元や他市町村の方々との交流会も行われております。

ただ、このような事業を行うためには、その財源を確保しなければならず、壮瞥町と同じく蘭越町も全職員が節約や工夫に取り組んでいることでした。

この定住施策は人口減少対策にも関係しており、当町も色々と支援、施策を行っておりますが、今後とも策を練っていかねばと考えます。そして、移住、定住を提案する場合には、例えば場所を選ばない職業、スキル所有者等にも広げられる必要であり、女性が安心して子育てができる環境整備も求められております。視察研修を踏まえ、今後の議会活動に取り組みたいと思います。



定住住宅地貸付場所

議会活性化を目指して 商工会青年部との懇談会

町議会では、常任委員会の単独での開催は、平成15年以降行われていなく、年2回の総務・経済常任委員会合同の所管事務調査を行っているました。

しかし、昨今の地方を取り巻く環境は非常に厳しく、議会に対する関心も高まっているところから、平成27年の改選を終えて、各委員会での活動の必要性を議論しました。

そこで、以前から商工会青年部から議会との懇談要望があったことから、経済常任委員会の活動として行いました。

懇談内容は、商工会青年部の自

己紹介及び活動紹介を聞いたあと、青年部から議会に対し質問と要望



懇談会の様子

を受け、それぞれの委員が答えさせていただきました。

質問内容は「議員として町民の声を行政に届ける手段をどのように考えているか」「少子高齢化による人口減少対策、子育て支援対策、移住対策、農商工連携、地方創生などにより壮警町が進むべき方向性」等であり、今後の壮警町の在り方を真剣に考えていることが感じ取れました。

最後に部員のみなさんには青年部活動を自分を磨くトレーニングの場として生かしていただくことと、若者との交流を図り、まちを盛り上げていただきたいと伝えました。

今後各種団体との懇談会等を設け、反映できるものは行政に反映したいと考えております。

新しい議会構成をご紹介します。

議長 松本 勉
副議長 長内 伸一
監査委員(議選) 菊地 敏法

● 議会運営委員会

委員長 森 太郎
副委員長 加藤 正志
委員 佐藤 忖
委員 真鍋 盛男

● 一部事務組合議会議員

西胆振消防組合
加藤 正志
毛利 爾

西いぶり広域連合
佐藤 忖
森 太郎

※ 松本議長は、胆振管内町村議会議長会会長及び北海道町村議会議長会の理事に就任。

※ 加藤議員は、西胆振消防組合議会の議長に就任。

新人議員の紹介



もり ちかし
毛利 爾

私は昭和28年に壮警町で生まれました。

趣味は、最近は遠のいておりますがゴルフと料理です。

最近は食品添加物に関心を持ち色々と書籍を読んでおります。

皆様と一緒にまちづくりを考えながら今後の議会活動を行ってまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

9月定例会日程

9月定例会の日程(予定)を次のとおりお知らせいたします。

9月10日(木)・9月11日(金)
9月17日(木)

※17日は決算審査特別委員会も開催します。
ぜひ傍聴にお越しください。

委員会レポート

新しい

新任委員の紹介

壮警町議会の常任委員会は、総務と経済の2委員会組織しておりますが、平成15年以來すべて合同での委員会活動に取り組んできました。

27年度からは各委員会の単独での活動と合同での活動に取り組めます。

すでに経済常任委員会は2回、総務常任委員会は1回、合同で1回の活動に取り組んでおります。

総務常任委員会

委員長 佐藤 忒
副委員長 高井 一英
委員 森太 郎
菊地 敏 法

経済常任委員会

委員長 眞鍋 盛男
副委員長 毛利 爾
委員 長内 伸 一

加藤 正志
※議長 松本 勉は両委員会に所属しております。

視察の概要

町内の10施設(箇所)を視察し、その現状と概要と今後の対応について協議をしました。

1 壮警中学校プール

昭和52年に建設され、水泳環境の改善を図るため、屋根付きに改善し、学校教育・社会教育等で活用している。

6月中旬から9月中旬まで夜間も開放し、利用者は年間2000人程度である。

2 久保内町民プール

町制施行を記念して昭和37年に建設され、50年が経過し、町内で最古の施設でもある。

この間、コンクリートプールに

ビニールシートを張るなど改善を図ってきたが、地域の子どもの減少などで、利用者は年々減少しており、7月中旬から8月末日までの開放期間で100人前後となっている。



久保内町民プール

3 壮警町青少年会館

昭和45年に建設され、青少年のスポーツ(剣道)、スポーツクラブ、児童クラブ等で利用され、さらに、役場出張所等の役割もあり、多面的に利用されているが、経年による施設の老朽化が激しく、改善の必要がある。

第7次壮警町社会教育中期計画に示された方向性の推進が望まれる。

4 農村環境改善センター

平成4年に建設され、定期利用、不定期利用、合宿等で年間約4000人の利用がある。

今後、大ホールの雨漏り解消のために屋根の改修、スポーツ活動が可能な床の改修、宿泊施設(合宿)としての洗面所の設置など改善が必要である。

5 エゾ鹿捕獲用囲いワナ施設

エゾ鹿の被害防止のため、26年度に国の補助金を活用し、捕獲用囲いワナ施設を東湖畔林道沿いの草地(一部山林を含む)に設置した。

施設規模は直径30㍍で一辺16㍍の六角形となっており、その中に入る鹿もいるが、まだまだ十分な捕獲実績はない状況である。27年度も南久保内地区に設置が予定されている。



エゾ鹿捕獲用囲いワナ

6 商業活性化事業補助金導入箇所

同補助金を活用した有珠山ロープウェイの改良部分を視察した。ウッドデッキや身障者用の車いす通路等が改善され、多くのお客様を迎える観光の町として生かされたものとなっている。

7 テニスコート

総合グラウンドの一角に設置されているテニスコートは、設置時は多くの愛好者やクラブ等の利用があったが、徐々に利用者が減少

し、現在は皆無に近い状況が続いている。

施設の存続は、利用者等のニーズや改修工事に多額の費用がかかることが予想されるので、総合グラウンド全体として検討することが望ましい。



テニスコート

8 遊学館(旧・児童館)

昭和43年に建設され、その後60年に武道場としての体育館が建設され、児童の文化・スポーツ活動の場として利用されてきた。

平成22年に子どもセンターの建設に伴い、児童館の活動機能が移行したため、遊学館に名称を変え、年間通してのスポーツ活動(剣道・柔道)等の場として約3500人前後の利用がある。

27年度は体育館の暖房機の更新と古くなった遊具施設の撤去が計画されている。

9 サクラランボの雨除けハウス

農業生産性向上対策事業補助金

を活用してサクラランボの雨除けハウスを設置した果樹園で設置状況効果、サクラランボ栽培の苦労等の説明を受けた。

この事業は天候に左右される果樹園の経営に大きく寄与していることが確認された。

10 次世代自動車充電設備

次世代自動車(電気自動車)の普及を目的に、情報館1の駐車場に設置された充電設備の現状と利用状況の説明を受けた。

また、利用台数は少ないが、今後の電気自動車の普及に寄与するものである。

本体を利用者が利用しやすい場所に配置する必要があるとの指摘もあった。

工事発注状況

平成27年2月から
平成27年5月までの発注分

()内は予定価格

- 新山2号橋補修工事
1,188,000円 (1,198,800円)
壮建興業(株)
- 町道阿波国共同墓地線道路改修工事
2,808,000円 (2,894,400円)
壮建興業(株)
- 子育て住宅外構整備その2工事
3,024,000円 (3,164,400円)
道栄建設(株)
- 滝之町集落排水処理施設放流吐口堆積土除却工事
1,242,000円 (1,259,280円)
壮建興業(株)
- 壮瞥小学校管理職住宅建築主体工事
25,920,000円 (26,568,000円)
(株)中山工務店
- 壮瞥小学校管理職住宅電気整備工事
2,376,000円 (2,451,600円)
(株)堀口電気商会
- 壮瞥小学校管理職住宅機械設備工事
4,482,000円 (4,622,400円)
(有)堀口水道
- 洞爺湖園地護岸補修工事
6,534,000円 (6,696,000円)
壮建興業(株)
- 水道メーター器取替工事
3,317,760円 (3,466,800円)
増井電機商会
- そうべつ情報館空調設備設置工事
2,030,400円 (2,073,600円)
(有)堀口水道

薫風

議員活動を終えて

阿野 幹雄



●議員に立候補した理由

私は平成15年4月に議員として活動を始めました。

これから農産物の自由化が始まり、海外から安い農産物が輸入されるといふことで、日本の農業をどう守るか色々気にかけていた頃でした。

壮警町も観光と農業が基幹産業なので、よく考えなければいけないといふことで、議員として日本(壮警町)のこれからを考えようとの思いで立候補したわけです。

●農業の発展に向けて

議員になる前から農家として、又農業委員として、携わってきたので、農業を思う心は、人一倍強かったのでしょう。

外国の農業と競争するには、価格の面ばかりではなく、安全、安心な作物でなければいけません。

だから、生産者の顔がわからなければならぬ。何よりも、農薬や化学肥料を減らし、有機質を使用したおいしい農作物を作り、輸入農産物との差別化を図るべきだと考えました。

その頃、ちよとど堆肥センターの建設計画が示され、有機質のたくさん入った減農薬の農産物(食糧)を生産

するための基幹施設としての期待を込めて建設されることとなったわけです。

堆肥センターの運営については、元来が採算性の低い施設ですが、農業者が輸入農産物と違った価値のある農産物を生産することにより、農家の手取りを向上させることが最大の目的ですから、運営にあつては、将来を見据え、十分考慮いただきたいと思ひます。

その後、まちづくり交付金事業があり、壮警の町並みをこれからどうするのかという非常に大きな課題を議会で議論することになりました。壮警川沿いに百年もかかって発展してきた商店街をすべて移動するのも意味がないと思ひ、坂道で出入りに不便な役場庁舎と消防署を現在地に移設するという結論に達しました。

●病に倒れてからの変化

在任中に私は脳梗塞になってしまいました。幸いに軽い症状で、後遺症もなく日常生活は何の支障もないくらいでしたが、常に手足、肩、腰にしびれがあり、集中力がなくなりじっくり考えるにも面倒で、発言するにも思うように話しができない状況(これが後遺症なのか。)で、人間はやはりどこか痛いところがあると駄目なものだと感じました。

壮警町農業のために何かしなければと思ひ、議会活動に携わってきて、まだまだ道半ばではありますが、夢を語るうちは議員として活動していてもいいが、語れなくなつたらもう年老いたと思わなくてはいけない。夢を語る若い者にバトンタッチをするべきだ。これは私の最初からの持論でした。

色々なことがありましたが、3期12年は本当に早く感じますし、世の中の流れも本当に早いものだと思います。多くの皆様に感謝申し上げ筆を置きます。

編集後記

今年には地方統一選挙の年で、新たな議員が構成する委員会が議会広報を発行する運びとなりました。国政では安保法制が議論されておりますが、地方には国から地方創生の考え方が求められております。我が町としても10月中旬に将来の町の創生をどう進めるのか町民・行政・議会で協議をして壮警町の将来像を示さなければなりません。国はその将来像に対して、交付金を交付しようとしております。壮警町は道内でも住民が少ない町ではありませんが、自然環境の恵みを生かし、町民が知恵をだして将来像の作成に取り組みましょう。議会広報を通じて議会が取り組んでいる委員会活動・議会活動の内容を解りやすく編集して町民の方々にお知らせしてまいりたいと思っております。 K・T

新しい広報委員会の委員紹介



今回から広報特別委員会の委員が変わりました。委員は次のとおりです。

- 委員長 英男 一法 志郎
- 委員 一盛 伸敏 太
- 委員長 井鍋 内地 藤
- 委員 高真 長菊 佐森
- 委員長 長 長 員 員 員
- 委員 委 委 委 委